地歴公民(世界史)　慶應義塾大学　商学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式
マーク式･記述式･論述式

分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
大問数は従来と同じ３題。マーク式の空欄補充語群選択問題の総数は昨年度の 65 問から 60 問に減少したが，記述・論述式の総数は２問増加したうえ，論述式問題の総字数が昨年度より増加したため，全体の分量として大きな変化はなかった。やや易化した昨年度に比べて，細かい用語の出題はさらに減少した一方で，思考力を要する論述式問題が増えたため，難易度は全体として変化なしと判断した。

出題の特徴や昨年との変更点
マーク式の空欄補充問題を中心に，下線部対応の記述式と論述式の問題が出題される近年の形式が維持された。史料問題や地図問題は出題されていないが，モンゴル高原・天山山脈など，例年同様に地理的な知識を要求する問題が複数出題されている。

新課程を踏まえた出題
新課程の「世界史探究」では，諸地域の歴史的特質がどのように形成されていったのかという視点から世界の歴史を捉えることを学習目的の一つとしているが，まさに大問Ｉのテーマが「諸地域の歴史的特質の形成」であり，新課程の高等学校学習指導要領に沿っている。また，商学部は，従来マーク式・記述式でも用語そのものではなくその内容を問うたり，論述式では理由などを端的に述べさせる問題が特徴的であったが，今年度はその傾向が一層強くなっており，用語の暗記より本質的理解を重視する新課程の趣旨と合致している。

その他トピックス
年号や年代をはじめ数字を問う問題が，一昨年度・昨年度は６問出題されたが，今年度は３問に減少した。例年，現代世界の諸問題にかかわるテーマを扱うのが商学部の特色であり，第二次世界大戦後の現代史からの出題も近年増加傾向にあったが，一昨年度は時事問題や戦後史の問題が出題されず，昨年度は 20 世紀後半からの出題は１問で，今年度も戦後史と関わる問題は文化史的な２問のみであった。例年，商学部の論述式問題は，字数は少ないものの，受験生にとって意外な視点から歴史に目を向けさせる問題が特徴的である。昨年度はその傾向が見られなかったが，今年度は従来通りの傾向に戻っている。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野･テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
Ｉ	マーク式 記述式 論述式	諸地域の歴史的特質の形成	問１の空欄(３)(４)のヤギ，(11)(12)の煉瓦，(31)(32)のモンゴル（高原），(33)(34)の天山（山脈），問５の小麦粉，問７のインド化の事例などは，教科書に記載はあるが，歴史用語を覚えるだけの学習では見落としがち。また，細かな年号を暗記している受験生に限って，問１の(１)(２)の（約）１（万年前）という大きな年代が答えられなかったりする。こうした社会経済史は，商学部入試では必須で，差がつくところ。	標準

Ⓒ 河合塾　2025 年

Ⅱ	マーク式 記述式 論述式	技術革新の歴史	問１の空欄(51)(52)の許行，(53)(54)の公孫竜，問５の（あ）の 1724 年は，やや細かいが，その他のマーク式・記述式問題は確実に得点したい。(73)(74)の木版（印刷）は，教科書に記載があるうえ，問題の文章中に「その限界を克服する新たな印刷技術がのちに朝鮮半島において発明された」という部分からも金属活字を排除できなければならない。問６は，蒸気機関の普及がもたらしたメリット・デメリットは多々あるが，いずれも「自然環境に与える影響」から述べることが条件である。	標準
Ⅲ	マーク式 記述式 論述式	メディアが動かした世界	問１の空欄（111)(112)のオーストリア＝ハンガリー帝国については，フィウメの領有というと第一次世界大戦後にイタリアがユーゴスラヴィアと争ったことが問われていると思い込んで，ユーゴスラヴィアを選択してしまった受験生もいたのではないか。第一次世界大戦「前」が問われていることに注意。(117)(118)のコンピュータは，特定しがたかったかもしれないが，第二次世界大戦後に軍事技術として開発されたことは難関私大入試では必須。問２は，活版印刷や聖書の翻訳とプロテスタントの普及との関係を，「万人司祭主義」の内容に触れたうえで説明する論述問題。聖職者と一般信徒を区別しない万人司祭主義の立場の下，俗語に翻訳された聖書が活版印刷により大量に流通した。これが，教会の導きではなく信徒自らが聖書を読むことを重視するプロテスタントの普及に寄与したと考える。問７は，第４回選挙法改正後の選挙の結果成立した連立政権としては，ロイド＝ジョージの挙国一致体制なども当てはまりそうだが，問題の文章中の「民衆が形成する世論の力は大きく」から，選挙権の拡大により 1924 年の総選挙で労働党が躍進し，第１次マクドナルド内閣が成立したことと関連づけたい。	標準

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で，当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

慶應義塾大学の商学部は，学部の性格にあわせた社会経済史のテーマ問題が出題される。特に，16 世紀以降の世界の一体化に関する問題は頻出である。また，20～40 字程度の論述問題なども出題される。このような問題に対しては，世界史用語の暗記だけではなく，前後関係や因果関係をしっかりと理解しておくことが必要である。また，今年度は出題されなかったが，現代社会の諸問題を扱った大問が出題される年もあるので，普段から，現在世界で起こっていることと，世界史の学習内容の関係について，考える習慣も身につけておきたい。

© 河合塾　2025 年